

葉山港沖でヨット大会

障害者と健常者がクルーという同じ立場でヨットに乗り込み、帆走を楽しむ葉山町長杯障害者ヨット大会が十八日、葉山町堀内の葉山港沖で開かれ、地元の葉山や逗子のヨット協会、福祉団体の関係者を含む約百二十人が参加。町内の地域作業所などに通う障害者約三十人が競技用のヨットによるレースを初体験した。

潮風受け ふれあい、帆走

横須賀・逗子・三浦・葉山

障害者と健常者がクルー



障害者もクルーの一員として乗り込み、逗子湾を帆走するヨット

障害者ヨット大会は、県ヨット連盟と葉山町ヨット協会の共催。かながわ・ゆめ国体が開催された昨年、全国身体障害者スポーツ大会が県内で開かれたのを契機に、「海洋スポーツを通じて障害者と健常者が触れ合う場を設けよう」と始まった。

二回目の今年は、障害者を持つ人たち二、三人とベテランのヨットマンで結成した混成チームがJ24級と呼ばれる競技用ヨット二艇にそれぞれ乗り込み、葉山港口を起点に逗子湾沖に設けられたブイを回って再び港口に戻るコースでタイムを競い合った。

レース後は、葉山町社会福祉協議会のメンバーらが用意した焼きそばや豚汁などで昼食。さらに、葉山港

内で行われたリモコンのヨットレース、懇親パーティーなどの交流イベントを楽しんだ。



ヨット初体験の感想などを話題に昼食をとる大会参加者